

オープンサイエンス時代における 責任ある研究活動について

近年、国際的な頭脳循環がさらに活発になる中で、オープンサイエンスの推進がより一層加速しています。オープンサイエンスの進展により研究の透明性が高まることは、研究不正の防止、研究公正の面からも期待されているところです。

一方で、技術や成果の公開が安全保障上のリスクを引き起こす可能性があるなど、オープンサイエンス時代における研究活動にあたっては、様々な側面を考慮する必要があります。研究者はどのような内容をもとにオープンにし、責任ある研究活動を行っていくことが求められているのでしょうか。

また、研究データの管理の面からは、データマネジメントプランの作成、機関リポジトリ運営などの対応に追われている研究者・研究機関も少なくありません。研究者や研究機関はこれらの課題にどのように対応すべきでしょうか。

本シンポジウムでは、国内外の取組・事例等を紹介しながら現状について理解を深めるとともに、オープンサイエンス時代における責任ある研究活動の在り方について考えます。

日時

令和7年

11/21 (金) 13:00~16:30

参加対象

- ・研究室を主宰等する研究者の方
- ・研究現場における公正な研究活動に関心のある研究者の方
- ・大学・研究機関等で研究公正活動や研究倫理教育を推進・担当する方
- ・研究公正活動に関心のある方

プログラム

主催者挨拶

杉野 剛 日本学術振興会 理事長

来賓挨拶・講演

須藤 正幸 文部科学省 科学技術・学術政策局
参事官(研究環境担当) 研究公正推進室 室長

講演①

『オープンサイエンス、生成AI、データサイエンスで
研究公正はどう変わるのか』林 和弘 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席フェロー
(併)データ解析政策研究室長

講演②

『オープンサイエンスと研究データ管理—広がる研究公正の範囲』

船守 美穂 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授
鹿児島大学 附属図書館 オープンサイエンス研究開発部門 部門長

講演③

『オープンサイエンスが拓く研究の公正と未来
— 透明性・再現性・信頼性の新時代』

札野 順 早稲田大学 大学総合研究センター 教授

パネル
ディスカッション『オープンサイエンス時代における
責任ある研究活動の在り方と今後の展望について』

【モデレーター】水本 哲弥 日本学術振興会 上席参与

【パネリスト】林 和弘 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席フェロー (併)データ解析政策研究室長

船守 美穂 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 准教授、鹿児島大学 附属図書館 オープンサイエンス研究開発部門 部門長

札野 順 早稲田大学 大学総合研究センター 教授



林 和弘



船守 美穂



札野 順



水本 哲弥

お申込方法

下記URLまたは右の二次元コードからアクセスいただき、お申込みください。

<https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/kousei-sympo/>

お問い合わせ

シンポジウム運営事務局 東武トップツアーズ(株)

☎ 050-9014-8423(平日9時半~17時半) ✉ kousei-sympo@tobutoptours.co.jp

お申込みは
こちら申込締切:
11月17日(月)

主催



JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE

日本学術振興会

共催

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)、
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター(BRAIN)、
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)